

道徳科学習指導案

指導者 T1：佐々野 美紀

T2：行廣 弥生

1 学 年 第2学年 1組 11名

2 日 時 令和4年6月23日（木）第5校時

3 主題名 「やさしくできた」（B 親切，思いやり）

4 本時のねらい 身近にいる人に親切にしたことで「ありがとう」と言ってもらった「ぼく」の気持ちと、「ありがとう」と言ったそれぞれの気持ちを考えることを通して，人に親切にすると相手も自分もいい気持ちになることに気付き，身近にいる人に温かい心で接し，親切にしようとする態度を養う。

5 教材名 「ありがとうって言われたよ」（日本文教出版）

6 主題設定の理由

（1）主題観

望ましい人間関係を構築するためには，お互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが重要である。思いやりとは，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思うことを考えることである。具体的には，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。そのためには，親切な行為の前提となる，相手のことを親身になって考えようとする態度を養うことが大切である。身近にいる人に対して，温かい心で親切にすることのよさを実感することを通して，親切にしようとする態度を養いたい。

（2）児童観

本学級の児童は，友達に優しく接したり，親切にしたりすることの大切さを理解しており，困っていたり泣いていたいたりしている友達を見ると，「どうしたの」と声をかけたり励ましたりすることができる。しかし，自分中心の考えが先行してしまい，相手の気持ちを考えない言動をとってしまうこともある。これは，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることがまだ十分にできていないことが要因としてあげられる。そこで，本教材を通して，困っている人の気持ちを考え，温かい心で接すると，自分も相手も心地よくなることに気づかせ，親切にしようとする意欲を高めていきたい。

（3）教材観・指導観

本教材は，主人公の「ぼく」が身の回りの人に親切にし，そのことによって一日に何度も「ありがとう」と言われ，うれしい気持ちになる話である。

指導にあたっては，はじめに，日常生活の中でどんなときに「ありがとう」と言われるのかを聞き，本時の学習につなげさせる。

次に，それぞれの場面で「ありがとう」と感謝の言葉を言ったときの人物の思いと，身の回りの困っている人に親切にした主人公の「ぼく」の思いについて考えさせたい。

次に，家に帰ってお母さんと話している「ぼく」の気持ちを考えさせ，自分の行動を誇らしく思うぼくの気持ちや，お母さんのにこにこした顔を見て，改めて親切にするとうれしい気持ちになることを考えさせられるようにする。

最後に、本時の学習を振り返り、人に親切にすると相手も自分もいい気持ちになることに気付かせる。そして、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を養うことができるようにする。

7 他の教育活動などとの関わり

- 日常生活の中で把握した児童の親切的な行為をその都度褒める。
- 帰りの会の「きらきらさん紹介」で友達の親切的な行為を伝え合う。また、それらの行為について学級通信で保護者にも知らせる。
- 道徳学習プログラムの「じぶんやともだちのよさを見つけて なかよくたすけあおう！」の目標に向けて、道徳科を中心とした学習活動を行う。

8 本時の展開

(1) 準備物 場面絵、短冊

(2) 本時の学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 本時で学習するテーマを捉える。	「ありがとう」ってどんなときに言われたことがありますか。 ・ 友達の消しゴムを拾ったとき。 ・ 困っている友達を助けたとき。	○友達とのこれまでの経験を振り返らせ、教材の内容を自分事として捉えられるようにする。
展開	2 教材「ありがとうって言われたよ」を読んで考え、話し合う。	ゆうまくんに「ありがとう」と言われたときのぼくの気持ちを考えましょう。 ・ うれしいな。 ・ 入れてあげてよかったな。 かなさんのかさをすぼめて「ありがとう」と言われたときのぼくの気持ちを考えましょう。 ・ ありがとうを言われて気持ちがいいな。 ・ つぎもやってあげよう。	○相手に親切的な行動をしたことで、最初にお礼を言われた成功体験について考えさせる。 ○T 1 と児童で役割演技をし、登場人物の心情に共感させる。 ○T 2 は、「ぼく」の気持ちを中心に板書する。 ○役割演技をすることを通して、「ありがとう」と言われた「ぼく」の気持ちを考えさせるとともに、かなさんが「ありがとう」といった時の気持ちについて自分の言葉で具体的に表現させる。

		ひろきくんに「ありがとう」と言われたときのぼくの気持ちを考えましょう。 ・やさしくしてよかった。 ・また、ありがとうを言われてうれしい。 家に帰っておかあさんと話している「ぼく」はどんな気持ちなのでしょうか。 ・みんなに優しくしてよかった。 ・また親切にしたいな。 ・たくさんありがとうを言われてうれしいな。 「ぼく」は「ありがとう」って言われたいから親切にしたのかな。	○ひろきくんのことを思って親切にした「ぼく」の気持ちを考えることを通して、相手のために親切にすると気持ちがよいことに気付かせる。 ○「ありがとう」を三回も言われたときの心情を手を広げて表現させ、ぼくのうれしさに共感させる。 ☆人に親切にすることで感謝されたことをうれしく思う「ぼく」の気持ちを考えることができたか。 (道徳ノート、発言) ○見返りを求めるために親切にしたのではなく、相手の気持ちを考えて親切にした「ぼく」の気持ちに気付かせるとともに、親切にすることで相手も自分もいい気持ちになることに気付かせる。
終末	3 教師の説話を聞く。 4 本時の学習から、これからの自分に生かしていきたいことを考える。	みなさんも帰りの会の「きらきさん紹介」で「ありがとう」のことが増えていますね。 今日の振り返りを書きましょう。 ・親切にすると自分も相手もうれしくなることが分かった。 ・相手のことを思って親切にしたい。 ・やさしくしてもらったり、助けてもらったときは「ありがとう」を言おうと思う。	○日常生活の中での児童の親切的な行動について取り上げ、これからも友達に親切にしようという態度を養う。 ○親切にしようとする意欲を高めるようにし、余韻をもって終わる。 (道徳ノート、発言)

9 板書計画

ありがとうって言われたよ

ゆうまくん

「ありがとう。さようなら。」

場面絵①

ありがとう

- ・うれしい。
- ・ゆう気を出して声をかけてよかった。
- ・また、こまっている人がいたらたすけてあげよう。

かなさん

「ありがとう。」

場面絵②

ありがとう

- ・気持ちがいいな。
- ・またありがとうと言われてうれしいな。

ひろきくん

「ありがとう。たすかったよ。」

場面絵③

ありがとう
たすかったよ

- ・ひろきくんがまにあってよかった。
- ・ありがとうをたくさん言われてうれしいな。
- ・ありがとうと言われると気持ちがいいな。

場面絵④

- ・みんなにやさしくしてよかったな。
- ・また、しんせつにしたいな。
- ・いい気持ちだな。

ありがとう

- ・みんながいい気持ちになることば
- ・言った人も言われた人もうれしくなることば
- ・心があたたかくなることば

10 成果（○）と課題（▲）

- 全員ペアを組ませ、役割演技をさせることで、どの児童にも登場人物の心情を捉えさせることができた。
- 「ぼくは『ありがとう』って言われたいからみんなにやさしくしたのかな」と切り返し発問をすることで、見返りを求めるのではなく、相手のことを思って親切にしたぼくの気持ちに気付かせることができた。
- 帰りの会の「きらきらさん紹介」でもたくさん「ありがとう」の言葉があることを紹介することで、本教材と日常生活とを関連させて、考えさせることができた。
- ▲3回「ありがとう」と言われたからうれしい気持ちが大きくなっただけではなく、下級生や上級生にも声をかけて親切にできたぼくの気持ちに気付かせる必要がある。
- ▲振り返りの視点を明確にして、教材を通して学んだことを自分事として考えられるようにする必要がある。

